

第4回 ぎんぎん技術セミナー プログラム  
テーマ 「これからの再処理と今後の研究開発」

主催 再処理・リサイクル部会

議長：鈴木先生（長岡技術科学大学教授）

1. 日程

1月8日（火）－9日（水）

2. 場所

青森原燃テクノロジーセンター

<http://www.agtcinc.co.jp/facilities/trainingroom.html>

〒039-2664 青森県上北郡東北町字乙供 58 番地

TEL.0175-63-4680(代) FAX.0175-63-4681

3. 開催趣旨

我が国の原子力計画の方針、福島支援の動向を鑑み、現在の六カ所再処理プラントの現状や今後の展開を中心に、広くバックエンド分野の若手・中堅研究者を集め、我が国の再処理研究開発の今後について率直かつ横断的に、時間的な制約をあまり気にせずに徹底して討論を行う。

4. プログラム

一日目（1月8日）

13:30-13:40 開会挨拶（問題提起）：長岡技術科学大 原子力安全系 鈴木達也 先生

13:40-14:10 日本の再処理のこれからと若手技術者へ期待すること：JAEA 大洗・福島燃料材料試験部 中村博文 氏

14:10-15:00 核燃料サイクル政策の動向：JAEA 基礎工部門 核工学・炉工学ユニット 核変換工学技術開発 Gr 佐々敏信 氏

15:00-15:20 休憩

15:20-15:50 FaCT フェーズ I での FBR 燃料再処理技術成果のまとめ：JAEA 次世代部門 再処理技術ユニット 再処理技術開発 Gr 竹内正行 氏

15:50-16:20 核サ研 再処理工場における研究開発の現状：JAEA 東海・核サ研 東海再処理センター処理部 林晋一郎 氏

16:20-16:50 原子炉内で生成される有用物質の利用を考慮した核燃料サイクル：長岡技科大 鈴木先生

16:50-17:20 高レベル廃棄物中有用元素の分離技術（仮）：東北大学サイクロトロン R I センター六ヶ所分室 金聖潤 先生

17:20-18:00 休憩

18:00-20:00 夕食・討論(1)

二日目 (1月9日)

9:00-9:30 アクティブ試験を踏まえた溶解槽の運転・保守の課題と対策：日本原燃 再処理工場 前処理部 前処理課 田中聡 氏

9:30-10:00 U・Pu 混合脱硝設備の定格処理能力の確立について：日本原燃 再処理工場 化学処理部 脱硝課 三浦進 氏

10:00-10:15 休憩

10:15-11:45 討論(2)

11:45-12:00 今後の展望と閉会挨拶：鈴木先生

午後 日本原燃サイト見学ツアー (別紙参照、希望者)

## 5. 定員、参加費と交通

### (1) 定員

- 会場の都合で 20 名といたします。
- 先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。

### (2) 参加費

- 5,000 円 (8 日夕食、9 日朝食込み)
- 宿泊料金は 3,990 円 (別料金、税込み) です (室数の都合上、基本的に相部屋となります。)
- 昼食 500 円(9 日ツアー参加者)

### (3) 交通

- 三沢空港。車 40 分。
  - 八戸駅→三沢駅 (青い森鉄道 550 円)。車 30 分。
  - 八戸駅→乙供駅 (青い森鉄道 890 円)。徒歩 20 分。
- ※日本原燃からの移動手段は参加人数、行き先に応じて決定します。

## 6. 参加申し込み・問い合わせ及び締め切り

参加申し込みは、下記までメールもしくは電話、ファクスにてお願い致します。  
お申込みの際に、日本原燃サイト見学ツアーへのご参加有無をお知らせ下さい。  
なお、申し込みの締め切りは 12 月 27 日 (木) とします。

小山 真一

Koyama.shinichi@jaea.go.jp

原子力機構 大洗研究開発センター

TEL 029-267-4141(内)5560、 FAX 029-266-0016

## 7. 議長からのお願い

本セミナーの主旨は、「再処理の、純に技術的な中味について、率直かつ横断的に、時間的な制約をあまり気にせずに徹底して討論を行うこと」にあります。皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

なお、セミナーを有効なものにするために、発表者の方には、以下の点に十分ご配慮をお願いします。また、発表の無い方も、討論の参考にしてください。

●このセミナーでは、再処理の一線級の技術者や研究者が、率直に技術的な内容について討論を行います。従って、発表や討論においては、営業的なセンスはまったく不要です（その点にお互いに配慮した上での議論です）。技術的な問題の指摘を率直に行います。

●ステレオタイプな紹介や常識的な事の説明は不要ですので、出来るだけ核心部分の説明に時間を使ってください。

●各プレゼンテーションには 30 分割り当てられていますが、講演自体は 20 分程度で終了して、残りの時間を質疑応答・討論にあてるようにしてください。重要な論点について深く掘り下げて議論したいと思います。

●発表の内容については、以下のような点をカバーするような、集約的なスライドを用意していただくのが効率的かと思えます。

(1) 工程や手法の原理と仕組みを簡単に説明。長々とした紹介は不要です。

(2) その工程や手法に関して最もキーとなっている化学反応や、制御、工学的な特徴を十分に説明してください。ここでは、その再処理手法の根本原理の紹介をできるだけ定量的に行ってください。そして、その手法の期待点や魅力を定量的に紹介してください。

(3) 軽水炉燃料の再処理、高速炉燃料の再処理、より先進的な炉の再処理など、適用対象を明確にしてください。

(4) 実験や工学開発の中味と結果の集約的な紹介をお願いします。計画紹介よりも実績紹介が中心です。得られている成果を包括的に表す図や表を厳選していただくのが良いと思います。

(5) それぞれの工程や手法の開発における課題についても、以下を例として、率直にご紹介願います。

- ・開発研究の段階
- ・基礎データの不足や実証の不足など
- ・実験上の困難さや理論の不足など
- ・工程性能と目標の課題（回収率や分離係数、効率、稼働率などの見通し）
- ・安全上の本質課題（本質的でないものは不要）
- ・工学的に現実的な課題（材料、エンジニアリング、経済性への感触等）

(6) とても興味深い新しい発見や特徴的な発見・発明、あたらしい芽など

● 討論については、夜の飲み物付きの会においても継続します。夜は個別の討論よりも、総合的な討論を目指します。

## 8. 発表等の要領

○ スライドはコンピュータからプロジェクタで投影する。

発表を円滑に進めるため、基本的に、ファイルを予め email 等で小山宛てに送っていただき、事務局が用意する PC で投影します。

スライドは PowerPoint で作成して下さい。一般的なフォントを用いて下さい。

当日にデータを受け渡す場合には、USB スティックで行うこととなります。

また、御自分の PC を持ち込んで使用する場合にはその旨御連絡いただければ幸いです。

○ 資料を配付する。

資料は発表者が人数分を用意して下さい。(部数は後日連絡させていただきます)

○ フォーマットはフリーとします。

## 9. その他

○ 後日、発表資料（許可分のみ）を CD-ROM にまとめて参加者にお送りする予定です。

## 10. 参加申し込み・問い合わせ及び締め切り

参加申し込み・問い合わせは、下記までメールもしくは電話、ファクスにてお願い致します。なお、申し込みの締め切りは 12 月 27 日（木）と致します。

小山 真一

koyama.shinichi@jaea.go.jp

原子力機構 大洗研究開発センター 燃材部・燃料試験課 (AGS)

TEL 029-267-4141(内)5560、 FAX 029-266-0016

以上

(別紙)

## 日本原燃サイト見学ツアーについて

ぎんぎんセミナーの青森開催にあわせ、日本原燃株の施設を巡るツアーを開催いたします。(六ヶ所原燃PRセンター、)再処理工場、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター、ウラン濃縮工場、低レベル放射性廃棄物埋設センターを約 時間で見学するコースです。

核燃料サイクルの中核施設を是非この機会にご覧下さい。

日本原燃見学ツアーへ参加を希望される方は、氏名(フリガナ)、性別、血液型、生年月日、国籍及びパスポート No(外国人のみ)、所属(会社名)・役職、現住所、電話番号を併せてお知らせ下さい。

また、ツアーに参加される場合、施設に立ち入るための身分証明証が必要となります。

○運転免許証、パスポート、住民基本台帳カード(写真付)、外国人登録証明

書のうち一点

又は

○住民票、健康保険証、年金手帳のいずれか2点の組み合わせ

### <予定行程>

12:40 テクノロジーセンター発(バス)

13:30 日本原燃着

13:40 見学開始

16:00 見学終了

日本原燃発(交通手段は、参加者数に合わせて決定します)

→三沢空港(16:50 ころ)→三沢駅(17:00 ころ)